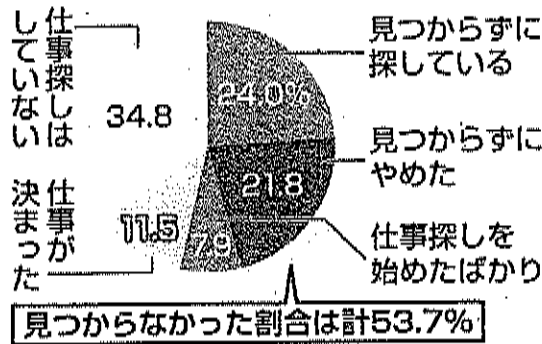


就職希望の60~74歳

探しても仕事ない

53%



60~74歳の就職活動状況 ※過去5年。リクルート調べ

六十~七十四歳の就職希望者のうち53・7%が、仕事探しをしても見つからず、仕事探したことがリクルートの調査で分かった。企業が特段の理由がないのに採用に及び腰に

なっていることが主な要因として浮かんだ。人手不足が深刻化する中、リクルートは「働きたくても働いていない高齢者を一人でも多く就労につなげられるよう取り組むべきだ」としている。

調査ではまず、六十~七十四歳の人に働く意欲を尋ねた。「就労したい」は37・7%、「就労したくない」は32・0%、「どちらでもないえない」は30・3%だった。「就労したい」の割合は二〇一六年から増加基調で、就労意欲が高まっていることをうかがわせた。

このうち就職希望者で仕事に就いていない人に過去五年の就職活動について尋ねたところ、「仕事が見つからずに探している」が24・0%、

「見つからずにやめた」が21・8%、「仕事探しが決まった」が34・8%、「仕事探しが決まらなかった」が21・8%、「仕事探しが決まらなかった」が7・9%で、計53・7%が仕事探しをしても仕事が見つからなかった。

「仕事が決まった」は11・5%、「仕事探しはしていない」は34・8%だった。

企業に高齢者の正社員採用に対する姿勢を聞いたところ「積極的ではない」との回答が66・5%を占めた。複数回答で理由を聞いたところ「特に理由がない」が30・3%で最多。「人員が足りている」の29・6%、「健康状態、体力が不安」の23・8%が続いた。

調査は今年二~三月にインターネットで実施。六十~七十四歳の六千人と企業六百社から回答を得た。